

# 令和5年度 学校関係者評価委員会 評価表

評価基準 **4** : 重点目標が十分達成できている **3** : 重点目標がおおむね達成できている  
**2** : 重点目標があまり達成できていない **1** : 重点目標がほとんど達成できていない

項目	重点目標	自己評価（学校）		改善策	学校関係者評価	
		達成状況	4段階評価		4段階評価	ご意見
1 学校生活・生活指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校での生活を楽しく過ごす。</li> <li>学校や学級で、いじめもなく友だちと仲よく過ごす。</li> <li>場に応じて、聞こえる挨拶をする。</li> <li>遅刻をしないなど時間を守って生活する。</li> <li>自転車で登校するときにはヘルメットをかぶる。</li> <li>先生は困ったことや悩んでいることの相談にのる。</li> <li>予鈴着席、私語をしないなどの規律ある授業ができる。</li> <li>提出物を忘れずに出す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「先生は困ったことや悩んでいることの相談にのってくれる。」に対する肯定的な回答は、昨年度末の80.1%から、今年度末の調査では86.7%に上昇している。今後は、「ややあてはまる」と回答した20.2%を25%以上、「よくあてはまる」と回答した66.5%を70%以上の回答へ改善されるよう</li> <li>「提出物を忘れずに出している」では、昨年度末の80.8%（肯定的意見）よりやや上昇し、84.8%であった。提出物をきちんと出せるようにすることを今年度の課題として捉え、声かけにとどまらず、提出物の内容やその設定手段についても再考し、板中メソッドやまとめの教材を活用するように指導した成果であると考える。さらに指導を継続し、90%以上を目指す。</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒に寄り添った助言や指導を進めていく</li> <li>巡視や面談・声かけ等を増やし生徒の日々の変化を素早く察知する。</li> <li>「学校での生活は楽しい」、「学校や学級で、いじめもなく仲よくすごしている」は、限りなく100%に近づけたい。</li> <li>教職員間で生徒に関する情報を常に共有できる体制づくりに努める。</li> <li>生徒会の挨拶運動の活動や教職員の登下校指導を毎日行い、聞こえる声で挨拶ができるまで呼びかける。</li> <li>着席後に取り組み、学習課題を準備し、直ちに始める習慣とルーティーンをつくる。</li> </ul> <p>○今後の課題と重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校や先生は子供同士のトラブルや悩みなどに素早く対応してくれる。</li> <li>いじめや差別のない楽しい学級や仲間をつくらうとしている。</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒・保護者・教師の3者とも肯定的な意見が概ね8割に達しており、日々の指導が徹底していることが分かりました。</li> <li>○全体から個々へときめ細やかな指導をされ、効果が現れていると感じます。</li> <li>○ほとんどの生徒さん達が学校生活に満足しているようでよかったと思います。</li> <li>○肯定的な意見が多い現状に満足することなく、日々の指導を継続していく必要があると考えます。</li> <li>○年間を通して、指導の強化が必要な時期もあるため、生徒の現状に目を向け、指導の在り方も検討を続けていく必要がある。</li> <li>○日頃から保護者の方や地域の方からのご意見をお聞きし、指導に反映させられるよう努力する必要があります。</li> </ul>

項目	重点目標	自己評価（学校）		改善策	学校関係者評価	
		達成状況	4段階評価		4段階評価	ご意見
2	<b>学力・学習指導</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えや意見を伝える力など、表現できる力をつける。</li> <li>授業の内容を理解する。</li> <li>毎日、家庭学習をする。</li> <li>朝読書以外にも読書をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「自分の考えや意見を伝える力など、表現できる力がついている。」に対する肯定的な回答は、昨年度より若干上昇し、75.3%であった。今後も生徒が主体的に表現する機会をさらに増やし、80%以上を目指したい。</li> <li>「朝読書以外にも読書をしている」は、昨年度の35.1%（肯定的意見）より若干上昇したものの、37.6%と依然低い数値となっている。タブレットの導入で、紙媒体に触れる機会が減少したことも要因と考えられ、今後の課題といえる。</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>鳴潮視写を継続し、表現力の向上と全教科共通の学びのスタイルを確立する。</li> <li>板中メソッドのさらなる定着を促進する。</li> <li>学習の土台となる「人間力づくり」「人間関係づくり」を最優先に取り組む。</li> <li>校内では、図書室の利用を生徒が増加していることから、来年度も読書習慣が身に付くよう、さらに取組を継続していく。</li> </ul> <p>○今後の課題、重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えや意見を伝える力など、表現できる力がついている。</li> <li>朝読書以外にも読書をしている</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭学習については、肯定的な意見が保護者で上がっているのは素晴らしい。一方で教師側の割合が下がっているのが気になります。</li> <li>○図書館が利用できるくらいに学校が落ち着いたと受け止めました。学校の掲示板に本の紹介がされており、学校の読み聞かせに来てくださっているメンバーに知らせ、情報を共有しました。</li> <li>○もっと本を読んでほしいと思います。読書の楽しさをもっと感じてもらうために何をすればよいか考えたいです。</li> </ul>
3	<b>進路指導</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>将来の夢や希望の実現に向けて考えている。</li> <li>自分の良いところを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者、教職員の回答では、昨年度より肯定的な意見の割合が高い傾向にあるが、生徒の肯定的な意見の割合は昨年度と変わっていない。</li> <li>教職員の設問項目「生徒は、将来の夢や希望の実現に向けて、主体的に進路選択しようとしている」の回答で「よくあてはまる」の割合が11.5%と低い数値になっている。</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来に向けて夢や希望を持てるようにするためには、自己肯定感を高められるように進路指導を継続するとともに、全体的な学力の向上に努める必要がある。</li> <li>「とことん続ける目標」の徹底で自己肯定感を磨き、それによって学習意欲を増加させるよう取り組む。</li> <li>キャリア教育の一環で実施している講演会においても、生徒が自らの可能性に気づき前向きに将来の進路選択を考えられる機会にしていきたい。</li> </ul> <p>○今後の課題、重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>将来の夢や希望の実現に向けて考えている。</li> </ul>	3.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保護者の肯定的意見が低いのは、家庭学習の定着に対する意識と関連があるかもしれません。</li> <li>○講演会やキャリア教育により生徒の知識も広がり、意欲へつながっていると思います。</li> <li>○入試対策の面接練習では、生徒の言葉に触れ、私もいろいろと感じさせられます。</li> <li>○教職員は、日常の学校生活で生徒の行動目標が適切で、習慣化に繋がっているのかを常に確認する必要がある。</li> </ul>

							・自分には良いところがある。	
4	道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会のルールを守って生活する。</li> <li>・自分が大切な存在であることを知る。</li> <li>・「とことん続ける目標」で、自信につなげる。</li> <li>・道徳の時間に積極的に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分が大切な存在であると思っている。」、「”とことん続ける目標”で、自信につながるようになった。」、「とことん続ける目標で自信につながるようになった。」の項目は、昨年度に明らかな数値の減少が見られたため、今年度はその改善に努めた。その結果、すべての項目で肯定的意見の数値が上昇したことから、徐々に道徳心は高まりつつあると考える。</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の授業改善をさらに推進する。</li> <li>・あらゆる教育活動の場面で道徳的意義を生徒に伝えたり、道徳の学習内容を学年通信等で家庭へ発信したりする。</li> <li>・令和6年度も「”とことん続ける目標”で、自信につながるようになった。」「自分が大切な存在であると思っている」の2点については重点目標として捉え、自尊心や自信につながるように、教育活動全般でより充実したサポートを行い、経過を注視したい。</li> </ul> <p>◎今後の課題、最重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が大切な存在であると思っている。</li> <li>・「とことん続ける目標」で、自信につながるようになった。</li> </ul>	3.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○様々な取組をされており成果を上げていますが、一方で保護者への広報・発信が改善されないもの、まだ十分でないのかもしれない。</li> <li>○道徳教育は道徳の時間に授業だけで行うものではなく、日常の学校生活のあらゆる場面的な考えを見なす必要があると考えます。</li> <li>○「”とことん続ける目標”」で、生徒が自信をもち、自己肯定感が上がることで、「自分が大切な存在」であると思えるよう、日々の学校生活での成功経験を積む場面を多く設定していくことが大切だと思います。</li> </ul>	

項目	重点目標	自己評価（学校）		改善策			
		達成状況	4段階評価				
5	特別活動 総合学習 部活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会活動や部活動に自主的・積極的に取り組む。</li> <li>・部活動ガイドラインを守り、活動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの設問項目における生徒の回答は、昨年度と比べ肯定的な意見の割合が増加しているが、保護者の回答では、数値が減少している。生徒会活動や部活動への主体的・積極的な取組は、保護者の方から十分な活動としての評価を受けられていないことを真摯に受け止めたい。</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演会や学校行事を生徒会が運営することを増やし、生徒会の活動が見える化を図る。</li> <li>・部活動の入部率や継続率を高めていきたい。</li> <li>・部活動では、生徒の意欲的な姿勢が練習や大会での活躍に大きく影響するため、技術的指導と心の指導をバランスよく行う必要がある。今後は、部活動のガイドラインを改めて全体で確認し、限られた時間で効率</li> </ul>	3.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○企業（イルローザ）と連携して商品開発に取り組むなど、キャリア教育の充実について参考にさせてもらいたい。</li> <li>○地域の行事で見た吹奏楽の演奏・部員の皆さんの態度はどちらも素晴らしかったです。</li> <li>○部活動の在り方は、教職員全体で共有し、保護者の協力が得られるように情報を発信していく必要があるを考えます。</li> <li>○運動部活動の地域移行については、地域との連携が大切になってくると考えます。</li> </ul>

					的な活動ができるように工夫していく。		
6	安全教育 環境教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>事故、不審者、災害等から身を守る方法を知る。</li> <li>学校の施設・設備を安全にする。</li> <li>時間いっぱい清掃に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学校の施設・設備は安全である。」の回答で、保護者、教職員の肯定的な意見は昨年度と比べて減少している。老朽化による施設の不具合があるものの、環境整備等は、日常の清掃やボランティア活動の充実によって整えることができる。</li> <li>本年度は、振り返り清掃に取り組むことで、清掃時間が午前中を振り返る時間になり、単なる清掃時間でなくなり、より充実した時間になったきた。</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難訓練の形態や実施時期を、事前連絡なしに行い、より真剣さ高め、実際の発生したときを想定し、改善点をリアルタイムで話し合う。</li> <li>生徒へ指導をする側の教職員の意識を高くするとともに、防災対策に重点をおいて優先順位をつけながら施設・設備の安全対策に取り組んでいく。</li> <li>振り返り清掃を徹底し、清掃を充実させるだけでなく、午前中の行動・取り組みを振り返る時間とし、午後の活動を充実させる。</li> </ul>	3.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設・設備の老朽化は同じような課題を抱えています。</li> <li>防災対策としての観点を常に意識をして、学校生活の安全を確保していく必要があると考えます。</li> <li>清掃活動では、生徒の実態に合わせて適宜指導が必要な場面もあると思います。</li> <li>清掃を通して指導できることもたくさんあると思います。</li> </ul>

項目	重点目標	自己評価（学校）		改善策	学校関係者評価	
		達成状況	4段階評価		4段階評価	ご意見
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校や先生は子供同士のトラブルや悩みなどに素早く対応する。</li> <li>いじめや差別のない楽しい学級や仲間をつくらうとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの項目で80%を超える結果となっている。特に、重点目標の一つである設問項目24「学校や先生は子供同士のトラブルや悩みなどに素早く対応してくれる。」に対する肯定的意見は、88.6%となり、昨年度末の80.8%から上昇している。このことから、生徒同士や生徒と教職員の関係は、ある程度良好な状態を保っていると考えられる。</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ対応を素早く、スピード感をもって対処する。</li> <li><b>◎今後の課題, 重点目標</b></li> <li><b>・いじめや差別のない楽しい学級や仲間をつくらうとしている。</b></li> </ul>	3.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>高い評価を得ていると思います。指定を受けて研究に取り組まれるようですので、参考にしたいと思います。</li> <li>「トラブル・いじめのある前提」で子どもたちと関わることをありがたく思いました。</li> <li>子どもたちが学校へいきたいと思えるような学校づくりを目指して努力する必要があると思います。</li> </ul>
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事や講演会を、楽しく、充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の肯定的な意見が9割を超えており、保護者の意見もそれに近い。</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事で生徒の夢や、考え、意見を保護者に見てもらったり、聞いてもらった</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校祭や講演会など工夫をしながら実施しており、教育効果も上がっていると感じまし</li> </ul>

事			りする活動を充実させる。 ・講演会等は保護者も参加・研修できるように計画する。	た。 ○文化祭の中庭閉会式はすてきたと思います。 ○講演会やケーキの販売は、きっと子ども達の将来に生きてくると思います。
---	--	--	--	--

項目	重点目標	自己評価（学校）		改善策	学校関係者評価	
		達成状況	4段階評価		4段階評価	ご意見
9 学校公開 情報公開 地域家庭連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の教育方針や教育活動のねらいを理解する。</li> <li>地域の行事に参加する。</li> <li>学校は授業参観や学校行事などを積極的に公開する。</li> <li>学校からの便りを保護者にわたす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>肯定的回答がすべて80%以上で設問項目29「学校は、授業参観や学校行事などを積極的に公開している。」は95.3%であり、一定の理解を得られていると捉えることができる。どの項目も昨年度と大差がないとはいえ、常に保護者の方への情報発信を意識し、ともに子どもたちを育てるための協力が得られるよう、学校側からの働きかけを継続していきたい。</li> <li>保護者が学校を訪問するPTA活動や学校行事などは新型コロナウイルス等の感染症感染拡大防止対策もあり、その機会が増やせていない。</li> <li>「学校から発信されるホームページ、マチコミメールは役に立っている。」では、92.2%の好意的な回答が得られているが、昨年度より割合が減少していることから、今後もコロナきめ細やかな情報発信に努めていきたい。</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者からの意見や情報を、教職員に日常的に伝え、情報交換を高める。</li> <li>学校からの情報発信力(学年や学級の通信、メール配信を増やし、コロナ禍で学校訪問が減っていることを補い、さらに連携を深める。</li> <li>学校と家庭が歩調を合わせ生徒の自己肯定感の育成を一体となっていく。</li> <li>生徒の夢や、考え、意見を保護者に見てもらったり、聞いてもらったりする情報発信を強化する。</li> <li>『とことん続ける目標』を保護者に知ってもらう。</li> </ul>	3.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>商品開発など地域と連携した取組から教育DXなど先進的な取組まで幅広く取り組まれており、特色ある学校づくりができていると感じました。</li> <li>私たち地域の者も中学校さんともっとつながれたらと思います。</li> <li>コロナ禍の学校生活から従来の学校生活へ戻りつつある現状を踏まえ、学校・保護者・地域とつながる方法を再度検討していく必要があると思います。</li> <li>学校での出来事を保護者の方はもちろんのこと、地域へも発信して連携を進めていけたらと考えます。</li> </ul>